

授業科目	日本語教育実習				単位	4		
履 修	選択	関連資格	日本語教員		ナンバリング			
開講年次	3	開講時期	通年	該当DP	DP4-3 DP5-1			
担当教員	Kristen Maree Sullivan							
授業概要	<p>日本語教育関連科目の最終段階として、実際に日本語学習者を対象に教壇実習を行い、今までに学んできた理論と実践の統合を目指す。学内実習を行った後、学外実習として日本語教育機関で、日本語教育の実情を見学や教壇実習により学ぶ。また外国人学習者との交流を通して、学習者の母国の文化や、学習者心理、日本語習得過程、異文化適応上の問題などを学ぶ。</p> <p>教壇実習では事前に対象学習者にふさわしい教授が可能になるように、十分な教材分析と指導案作成、教材教具の作成、模擬授業を行う。授業はビデオ録画し、フィードバック・セッションとして、教授者・観察者間で相互評価を行う。</p> <p>尚、前期の教壇実習については海外や学外にいる相手を想定しているため、オンラインツールを使って実習授業を行ってもらえる可能性がある。できる限る様々なバックグラウンドやレベル、ニーズの学習者を相手に実習授業を行う機会を設けたいと考えている。後期の実習対象機関や実習を行うスケジュールについてはコロナの状況や外国人の入国状況などによって影響を受ける可能性があることを理解しよう。コロナの状況などを受けて、スケジュールを一部変更することがある。本科目は学外活動を伴う。</p>							
学生が達成すべき行動目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習先の学習者のニーズを満たす指導案が作成できる。 2. 学習者にとって必要な日本語が教授できる。 3. 日本語教育機関と学習者の多様性が理解でき、それらに適切な対応をとることができる。 4. 仲間と協力して実習先の指導教員や学生に満足してもらえる実習を行うことができる。 							
達成度評価								
評価と評価割合／ 評価方法	試験	小テスト	レポート	発表(口頭、プレゼンテーション)	レポート外の提出物	その他	合計	備考
総合評価割合	0	0	30	30	20	20	100	
知識・理解 (DP1-1)								
知識・理解 (DP1-2)								
知識・理解 (DP1-3)								
知識・理解 (DP1-4)								
思考・判断 (DP2-1)								
思考・判断 (DP2-2)								
関心・意欲 (DP3-1)								
関心・意欲 (DP3-2)								
態度(DP4-1)								
態度(DP4-2)								
態度 (DP4-3)					20	20	40	
技能・表現 (DP5-1)			30	30			60	
技能・表現 (DP5-2)								
技能・表現 (DP5-3)								
具体的な達成の目安								
理想的レベル				標準的なレベル				
学んだことを、自分のことばで他の人に分かりやすく説明できる。				<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習先の学習者のニーズを満たす指導案が作成できる。 2. 学習者にとって必要な日本語が教授できる。 3. 日本語教育機関と学習者の多様性が理解でき、それらに適切な対応をとることができる。 4. 仲間と協力して実習先の指導教員や学生に満足してもらえる実習を行うことができる。 				

授業計画				
進行	テーマ・講義内容	授業の運営方法	学習課題(予習・復習)	予習・復習時間(分)
1	オリエンテーション 授業の概要を説明し、履修方法や授業の目的、達成目安、評価の内容と方法を理解する。	講義・演習	復習:該当部分の復習	60
2	教材分析・教案作成1 教材分析を行い、教壇実習へ向けた教案を作成する。	講義・演習	予習:該当部分の予習	60
3	教材分析・教案作成2 教材分析を行い、教壇実習へ向けた教案を作成する。	講義・演習	予習:該当部分の予習	60
4	教壇実習、フィードバック・セッション 授業担当者 A・B が、外国人を相手に実習授業を行う。 授業後、コメントを出し合うフィードバック・セッションを行う。	演習	予習:該当部分の予習	60
5	教壇実習、フィードバック・セッション 授業担当者 C・D が、外国人を相手に実習授業を行う。 授業後、コメントを出し合うフィードバック・セッションを行う。	演習	予習:該当部分の予習	60
6	教壇実習、フィードバック・セッション 授業担当者 E・F が、外国人を相手に実習授業を行う。 授業後、コメントを出し合うフィードバック・セッションを行う。	演習	予習:該当部分の予習	60
7	教壇実習、フィードバック・セッション 授業担当者 G・H が、外国人を相手に実習授業を行う。 授業後、コメントを出し合うフィードバック・セッションを行う。	演習	予習:該当部分の予習	60
8	まとめ1 これまでの授業のまとめを行い、全体のフィードバック・セッションを行う。	演習	予習:該当部分の予習	60
9	教材分析・教案作成3 教材分析を行い、教壇実習へ向けた教案を作成する。	演習	予習:該当部分の予習	60
10	教材分析・教案作成4 教材分析を行い、教壇実習へ向けた教案を作成する。	演習	予習:該当部分の予習	60
11	教壇実習、フィードバック・セッション 授業担当者 A・B が、外国人を相手に実習授業を行う。 授業後、コメントを出し合うフィードバック・セッションを行う。	演習	予習:該当部分の予習	60
12	教壇実習、フィードバック・セッション 授業担当者 C・D が、外国人を相手に実習授業を行う。 授業後、コメントを出し合うフィードバック・セッションを行う。	演習	予習:該当部分の予習	60
13	教壇実習、フィードバック・セッション	演習	予習:該当部分の予習	60

	授業担当者 E・F が、外国人を相手に実習授業を行う。 授業後、コメントを出し合うフィードバック・セッションを行う。			
14	教壇実習、フィードバック・セッション 授業担当者 G・H が、外国人を相手に実習授業を行う。 授業後、コメントを出し合うフィードバック・セッションを行う。	講義・演習	予習: 該当部分の予習	60
15	まとめ2 これまでの授業のまとめを行う。(日本語教育哲学と前期のふり返り)		復習: 該当部分の復習	
16	オリエンテーション 授業の概要を説明し、履修方法や授業の目的、達成目安、評価の内容と方法を理解する。	講義	復習: 該当部分の復習	60
17	実習対象機関の日本語教育の概要を知る 教壇実習を行う学校の日本語教育の概要について解説する。	講義	予習: 該当部分の予習	60
18	学習者のレベル及びニーズの把握 教壇実習を行う学校の日本語学習者のレベルとニーズについて解説する。	講義	予習: 該当部分の予習	60
19	授業見学1 教壇実習を行う学校で、授業見学を行う(初級クラス)。	演習	予習: 該当部分の予習	60
20	授業見学2 教壇実習を行う学校で、授業見学を行う(初中級クラス)。	演習	予習: 該当部分の予習	60
21	教壇実習、フィードバック・セッション 授業担当者 A が、外国人を相手に実習授業を行う。 授業後、コメントを出し合うフィードバック・セッションを行う。	演習	予習: 該当部分の予習	60
22	教壇実習、フィードバック・セッション 授業担当者 B が、外国人を相手に実習授業を行う。 授業後、コメントを出し合うフィードバック・セッションを行う。	演習	予習: 該当部分の予習	60
23	教壇実習、フィードバック・セッション 授業担当者 C が、外国人を相手に実習授業を行う。 授業後、コメントを出し合うフィードバック・セッションを行う。	演習	予習: 該当部分の予習	60
24	教壇実習、フィードバック・セッション 授業担当者 D が、外国人を相手に実習授業を行う。 授業後、コメントを出し合うフィードバック・セッションを行う。	演習	予習: 該当部分の予習	60
25	教壇実習、フィードバック・セッション 授業担当者 E が、外国人を相手に実習授業を行う。 授業後、コメントを出し合うフィードバック・セッションを行う。	演習	予習: 該当部分の予習	60
26	教壇実習、フィードバック・セッション 授業担当者 F が、外国人を相手に実習授業を行う。 授業後、コメントを出し合うフィードバック・セッションを行う。	演習	予習: 該当部分の予習	60
27	教壇実習、フィードバック・セッション 授業担当者 G が、外国人を相手に実習授業を行う。 授業後、コメントを出し合うフィードバック・セッションを行う。	演習	予習: 該当部分の予習	60

28	教壇実習、フィードバック・セッション 授業担当者 H が、外国人を相手に実習授業を行う。 授業後、コメントを出し合うフィードバック・セッションを行う。	演習	予習: 該当部分の予習	60
29	まとめ1 全体のフィードバック・セッションを行う。	講義、演習	予習: 該当部分の予習	60
30	まとめ2 これまでの授業のまとめを行いながら、今後、日本語教育についての学習をどのように継続し、身についた知識やスキルをどのように活用していきたいかについて意見を共有し、話し合う。		復習: 該当部分の復習	60
理解に必要な予備知識や技能	原則として日本語学概論、日本語教育方法論 I、II、日本語教育方法論演習 I、II、異文化間コミュニケーション I を履修済みであること。			
テキスト	『教案の作り方』アルク(2016)、『みんなの日本語初級 I 第2版 本冊』スリーエーネットワーク(2012)または『みんなの日本語初級 II 第2版 本冊』スリーエーネットワーク(2013)			
参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介	『日本語教師のためのアクション・リサーチ』横溝紳一郎(凡人社)(2000) 『成長する教師のための日本語教育ガイドブック 上巻』川口義一・横溝紳一郎(ひつじ書房)(2005) 『ドリルの鉄人』横溝紳一郎(アルク・オンデマンド)(1997) 『クラスルーム運営』横溝紳一郎(くろしお出版)(2011) 『まるごと入門 A1 りかい』国際交流基金(三修社)(2013) 『まるごと入門 A1 かつどう』国際交流基金(三修社)(2013) その他			
授業以外の学習方法・受講生へのメッセージ	1. 既習科目で履修したことをしっかり復習しよう。 2. 自分の日本語を意識化し、疑問に思ったことはすぐ調べよう。 3. 正しい日本語表現を身につけよう。 4. 書き順もきちんと復習しておこう。			
達成度評価に関するコメント	「達成度評価」の「その他」は、授業への積極的参加とする。			

